

1 総括

学習支援事業、フリースクール事業、免許取得支援事業に加え、ひきこもり事業に参画する機会が増えた。学園機能と福祉機能を融合させたシステムが県内外から着目され、移住、オンライン授業など、多方面からかかわりを求める方が増えている。コロナ禍で孤立しがちだった社会情勢を鑑み、違いを認め合いながらかかわりあえる環境を創ることを目指した。本人の特性を理解し、意欲を損なわないようなコミュニケーションの環境を創り、ともに学ぶ姿勢で接していくことで、効果を上げることができた。

2 子どもの学習支援事業（鹿沼市委託事業）

(1)実施日及び場所

毎週火曜日：南摩コミュニティーセンター
毎週水曜日：鹿沼市民情報センター
毎週土曜日：東部台コミュニティーセンター
毎週日曜日：菊沢コミュニティーセンター

(2)内容

- ・教科指導 受験指導
- ・芸術活動 音楽 絵画 工芸 コミュニケーション
- ・プログラミング・パソコン指導 ボードゲーム 将棋等
- ・ストレッチ体操
- ・不登校相談等教育相談 保護者交流会

(3)講師

教職員退職者、塾講師、大学生 20名

(4)児童生徒利用者数

小学生46名 中学生51名 高校生5名 計 102名

(5)成果と課題

- ・今年度も情報センターの参加者が多かった。パソコン室の利用に慣れ、前後半の利用時間を有効に使い、教科学習とのバランスを取りながら学習することができた。学習意欲が乏しい児童生徒に対しては、カウンセリングを実施した。
- ・南摩コミセンは小学校低学年児童や特別支援学級利用者が多かったので調理実習やタブレット学習を取り入れ、楽しく学習に参加できるようにした。また、困窮家庭が増加したことで食育を再開した。
- ・東部台コミセンでは、やや参加者の減少がみられた。土日開催についてはアンケートなどを実施して改善していく必要がある。
- ・文化活動交流館「シカノクラ」では、子育てに悩みを抱える保護者に対して、随時予約制で相談を受けた。今後はシングルマザーを支えるNPO法人「ママビアテラス」の運営も手掛ける予定である。
- ・ロータリークラブ等の支援を受け、食料品、日用品、文房具など緊急支援物資の配布ができた。
- ・事業が7年目に入り、児童生徒との信頼関係が深まった。
- ・中学生の時に学習支援でかかわった生徒が高校入学後も学習相談に訪れたので前年の担当講師が対応を継続した。
- ・本年度も年度の切り替え時期に休まず開所したので学習習慣が継続できた。

3 フリースクールでの学習指導

(4) 実施日・場所・活動内容

○ 上殿町きずなプラス

毎週水 10:00~13:00 音楽活動 レポート指導 コミュニケーション

毎週木 10:00~13:00 調理実習 読書会 ディズニー研究会 カード会

第2, 4土曜日 音楽練習 各種ワークショップ 親の会

毎週日曜日 地域行事 子育てサークル交流会

○ CCV エピック グループホーム

エピック グループホームの利用者との交流、共同学習 調理実習 工芸等

○ 各種スポーツ施設 スイミング ゴルフ 卓球

○ ほわっと自然村 農業体験 アロマセラピー 宿泊体験 数学 工芸

(2) 講師

金子幸子 福田精 藤沼清美 反町真帆 加藤詩乃 斎藤加居

その他 Epic 担当講師が兼務

(3) 生徒 利用者

小中学生 3名 高校生 15名 専攻科 6名 計24名

(4) 成果と課題

・不登校、ひきこもり、高校中退者が CCV に通うことに慣れるまでフリースクールに在籍し、受給者証取得後、福祉分野に移籍し、手厚い支援が受けられるようになった。

・高校卒業後自立訓練に在籍する流れが定着した。

・県のフリースクールと教育委員会の連携協議会が発足し、各市町村にも教育機会確保法が行き渡ったためフリースクールが出席認定を取りやすくなった。

・コプルと連携したひきこもり支援事業では、在宅就労の方向性について各機関と協議する場をもつことができた。

3 あおぞら学習支援（運転免許取得支援事業）

(1) 実施日 場所

毎週土日 CCV Epic その他各所個別対応

(2) 講師

学園講師 学習支援講師

(3) 利用者

・長期利用者 オンライン2名 対面4名、うち鹿沼に移住1名

・短期利用者 月平均3~4名

・一回60分から90分の個別指導

（おおよそ45点を7回とれるようになるとつばさプランに入ることができる。）

(4) 成果と課題

・短期利用者は教習所入所中に支援を行い全員免許取得ができた。

・長期利用者は2~3年在籍し、週2回程度定期的に受講することができた場合は、少しずつ成績を伸ばしていった。

・遠方から通うことが難しく、定期的な学習ができない場合は、成果が出にくい。オンラインで取り組むか、就労支援、生活支援を含めて、移住して支援を受けることで成果が出ている。

・入所時に保護者、本人と免許取得意欲について綿密に話し合うことが必要である。本人が取得意欲が薄い場合や取得後の就労を心配している場合などは保護者と十分に話し合い期限を設定して行った。

4 多様性を認め合うまちづくり

(1) NPO 法人福寿会との連携

・就労・移住相談

書式を変更: フォント: (英) Arial, (日) Arial, 11 pt

書式変更: 左揃え, 行頭文字または番号を削除, 罫線: 上揃え: (罫線なし), 下揃え: (罫線なし), 左: (罫線なし), 右: (罫線なし), 間: (罫線なし)

- ・就労継続B型事業所「わたの実」とフリースクール利用者の連絡調整
- ・板荷「むへん」との連携 見学5名 就労4名

(2) ほわっと自然村との連携

- ・野草茶づくり 綿栽培、自然農（火・木10時～15時）
- ・フリースペース事業参画
- ・イベント活動 ワークショップへの参加・
- ・親の会「NEW 生き方塾」

(3) こども食堂との連携

- ・孤食防止 コミュニケーション、交流の場づくり

(4) 住居提供と生活支援

短期宿泊 金子シェアハウス ほわっと自然村宿泊棟

(5) 成果と課題

- ・ピレシジづくりに興味をもつ支援者とイベント開催をしたり、移住相談を受けたりした結果、都内より3名の移住があった。子ども食堂、ほわっと自然村の農業とともに活動をしている。
- ・能登半島地震による2次避難者を迎え、ノルディックウオーキング、経絡セラピーなどを伝授していただき、CCV 会員、利用者との友好が築けた。
- ・以前より就労支援いただいている生花店よりアロマ蒸留を委託され、森林資源を有効に使う活動として評価された。また、作業自体がが芳香浴となることからメンタル面に不安をかかえる利用者に効果的な作業として今後も開発が期待されている。
- ・文化活動交流館「シカノクラ」がオープンし、毎週水曜日はカード交流カフェなどを開き、地域交流の拠点を創る活動ができた。